

パスワード管理のアイデア

現在の問題は、どれほど個人で用心しても相手サイトから漏れる場合があること

(<https://haveibeenpwned.com> でチェックしてみよう)

→ パスワードを共用しない。一つ漏れれば、別のサイトでも悪用される

→ とりあえず安全といえるパスワードの長さは15文字以上

→ **記憶できるわけがない**

対策1: ブラウザのパスワード保存機能を信頼する

→ 共用PCでは使えない

対策2: LastPass, Dashlane, 1Passwordなどのパスワード管理ソフトを使う

→ ここから漏れることはないと信じる必要がある

対策3: 紙のリストを使う → 紛失・盗難・押収に備える必要がある

IJF2019（欧州ジャーナリズム会議）では、紙に書き、財布に入れておくことを勧めています
二段階認証は必要に応じて使います（もちろん携帯電話番号を相手に提供してしまいます）

パスワード	用途
パスフレーズ（キャッチフレーズくらい長い、大文字or小文字だけ）	PGPパスフレーズ
パスフレーズの最初の__文字分	自分のPCのログイン
重要アカウント（決済を伴うもの）	
__文字分 + jc26173	社内ネットワーク
__文字分 + B_2019	銀行
__文字分 + g@2019	Google（二段階認証）
__文字分 + apT19	Appleアカウント
__文字分 + amazon2019	Amazon
発信を伴うもの	
__文字分 + Gh3l	Twitter（二段階認証）
__文字分 + MW9	Yahooアカウント
__文字分 + MW9	ニュースサイト

追加部分に@yahooなどのようにサービス名を使わない（簡単に類推される）

パスフレーズだけを記憶し、使い方は紙という物体に頼ることに意味がある。絶対にパソコンには保存しないこと

あけくれ

林 久枝さん 72歳 主婦 東京都町田市

庭先で洗濯物を干している母の背中に「行ってきた」と声をかけ職場へ。私は好きな人と結婚したかった。でも母は「愛だの恋だの言ったって米びつが空っぽじゃ暮らしちゃいけないよ」と言う。仕方ない。私の気持ちは決まっていた。仕事が終わって、新宿へ。公衆電話から市外局番を申し込む。電話に出た母に「もう帰らない」と私。「そう、じゃあいつ帰って来るの？」と、状況が分からない様子の母に「だから、もう家には帰らないの！」。

さすがに母の声が変わり「林君がいるんだね。林君を出しなさい！」とすごいけんまく。彼に受話器を渡したとたん、小銭がなくなり時間切れに。その時、電話交換の女性が「何か言ってますか？ あったらお伝えします」と言ってくれた。「僕たち、ちゃんとやっていきますから」と言ったら、電話は切れた。昭和四十二年冬のこと。何もかも便利になったからよけい心に残る思い出だ。母も不帰の客となり、林君も年を取った。